

楷

第八十三号

岡山大学
図書館報

OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

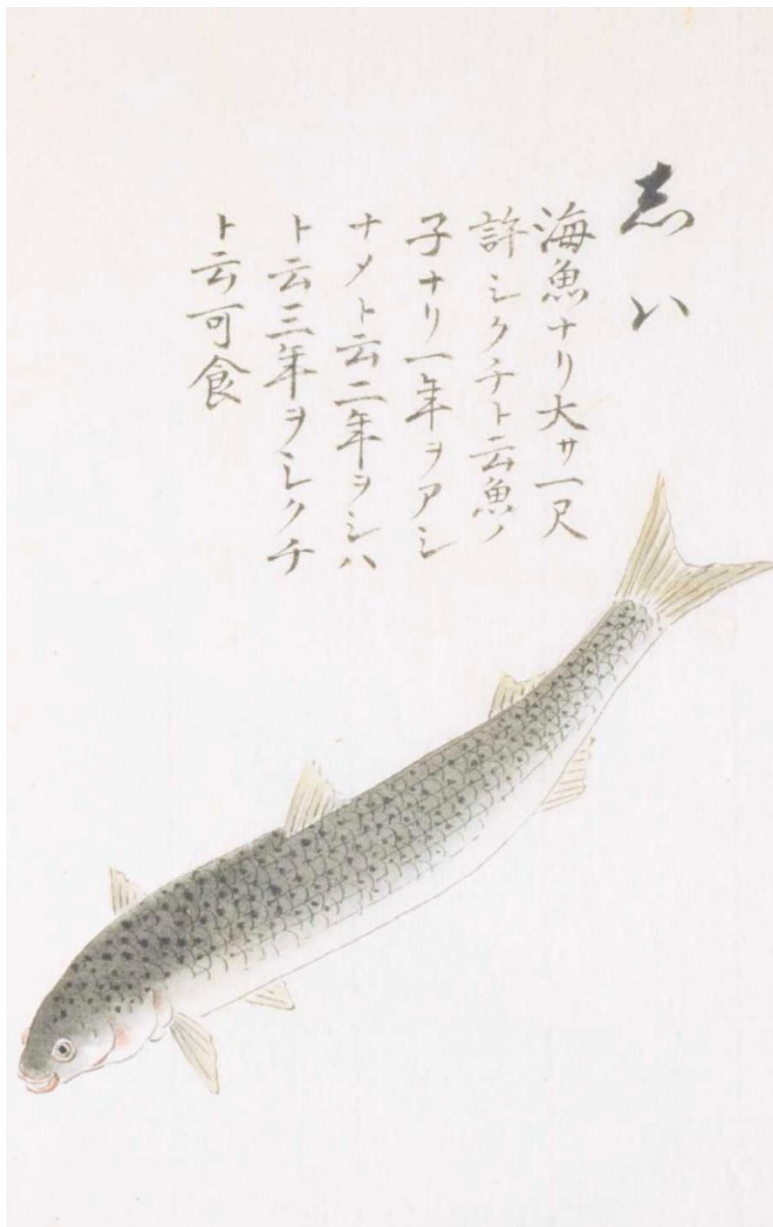
KAI
No.83

2026
OCTOBER

<写真>

しハ

海魚ナリ大サー尺
許シクチト云魚ノ
子ナリー年ヲアシ
ナメト云二年ヲシハ
ト云三年ヲシクチ
ト云可食



「備前国備中国之内領内産物絵図帳」（岡山大学図書館所蔵池田家文庫より）

一目 次一

- 大学図書館、学術誌、APC 支援（資源植物科学研究所分館長 且原真木）……………p.2
- マスカット……………p.5
池田家文庫絵図展のお知らせ、「知好楽セミナー」が「公共知共創フォーラム 知好楽」へと生まれ変わりました ほか
- 会議・研修・編集委員から……………p.15

大学図書館、学術誌、APC 支援

且原 真木

はじめに

資源植物科学研究所の且原です。大学図書館には、(1) 受け継いできた財産である図書の保存と活用、(2) コミュニケーション場としての役割、(3) 知の創出、という中心的で基本的な機能があります。

(1) の面での植物研分館の特色は、大原農書文庫、大原漢籍文庫、ペPPER文庫などの貴重書を保有していることです(楷 [No.58](#)、[No.60](#)、[No.77](#))。また植物研分館所有の戦前の文献を電子化し、国立国会図書館が持っていないデータについては国会図書館への提供もしています。(2) 学生と情報、学生同士、学生と教員がつながり、集う場としての役割は昔から大学図書館にとって重要かつ自然な機能でした。現在では大学と地域との関わりまで含めて、公共知共創という観点から捉え直されています(楷 [No.81](#))。植物研分館では、貴重書の企画展を開催し(楷 [No.54](#))、また年に一度の研究所一般公開に合わせた特別展示も行っています。(3) 未来に向けた働きの一つとして、岡山大学によるオープンアクセス(OA)化支援が図書館・公共知共創機構の管轄下で実施されています。筆者は日本植物学会が発刊している学会誌であり国際誌である *Journal of Plant Research* (JPR) 誌編集長を4年間(2025年3月まで)務めた経験がありますので、論文著者としての立ち位置も含めた大学側と学術誌側との両面から、OA化支援、特に論文掲載料(APC)支援について少々考察をしてみます。

APC 支援とは

2025年度から新たに公募を行う競争的研究費を受給する研究者は、その成果となる学術論文および根拠データの公開が義務付けられるようになりました。公開とは具体的には機関リポジトリ等の情報基盤への登録、および(または)すべての人が無償で利用できるOA論文として学術誌において成果が出版されることです。広告料で運営している雑誌や、招待論文として学術誌側の負担により著者側の負担なしにOA論文となる場合もありますが、多くの場合、OA出版には1編あたり数十万円のAPCが著者側にかかります。岡山大学ではElsevier、Oxford University Press、Springer Nature、Wiley等と「転換契約」(*1)を結んでいます。そのため、これらの出版社から発行されている学術誌においては、岡山大学の教職員や学生は著者負担5万円で研究成果をOA論文として掲載できるようになっています。これがAPC支援(*2)の一つ目です。転換契約とは別に、インパクトの高い国際的学術雑誌におけるOA出版を支援するAPC支援もあります。対象誌は2025年9月までは各研究分野のトップ10%誌で、2025年10月からはトップ25%(Q1)誌です。最新情報は図書館ホームページでご確認ください。並行して岡山大学学術成果リポジトリ(OUSAR)の整備もOA化支援として進められています(*3)。

転換契約とOA論文(JPR誌の場合)

岡山大学からの研究成果がOA論文として多くの方々に読んでもらえることは、岡山大学と岡山大学の研究者のプレゼンスを高めるために有意義であることは間違いありません。とはいえ、OA義

務化に対応という必要性は別として、APC 支援がどのくらい公共知の創出に有効的に機能しているかは、大学側からはわかりにくいものです。学術誌の立場から言えば、転換契約は安定的な購読契約と OA 論文の確保に役立つことは確かです。ただし APC 支援が個々の学術誌において論文の数や質の向上にどの程度貢献しているのかの情報はあまりありません。この点について、転換契約等 APC 支援が始まってまだ数年なのでデータの蓄積が十分でない現状ですが、それでも過去 5 年の JPR 誌のデータを使って見えてきたことを紹介します。データは WoS など公開されているものを取りまとめたものです。著者が JPR 誌の編集長を務めていた 2024 年に、出版社 Springer の求めに応じて講演した際にまとめた情報も秘密保持に抵触しない範囲で記します。

まず JPR 誌について簡単に紹介します。JPR の前身は 1887 年 (明治 20 年) に牧野富太郎博士らによって創刊された日本最初の植物科学の学術誌「植物学雑誌」(図 1) で、これは 2023 年に NHK の朝ドラで取り上げられました。現在は誌名が変更されて英文国際誌となっていて、年間 1000 件前後の原稿が世界中から投稿され、査読を経て毎年 100 編ほどの論文が掲載されています。掲載費無料で日本植物学会会員およびジャーナル購読者 (機関) のみが閲覧できる論文 (Subscription) と OA 論文とが共存している、いわゆるハイブリッド誌です。JPR 誌の出版社の Springer は岡山大学と 2023 年から転換契約を結んでいます。電子ジャーナルとしての面からは、2023 年の JPR 論文ダウンロード数は 395,870 でした。ジャーナルホームページからの論文アクセス数は、2021 年から 2024 年 6 月 11 日までのデータで、OA 論文は非 OA 論文の 5.5 倍を記録しています。これは OA 化の結果として順当なものでしょう。論文の社会的影響を測る指標とされる Altmetrics (*4) の論文一編あたりの値は、JPR における OA 論文は非 OA 論文の 10 倍以上になっています。これは OA 化が研究成果の公共知化に有効であることを示しているのではないのでしょうか。ただし Altmetrics は SNS など比較的短期間の影響を多く反映したものであることに留意する必要があります。

では OA 論文の総数は増えているのでしょうか。2021 年から 2025 年のデータ (図 2) を見ると転換契約が導入された 2023 年以降に劇的に増えているとは言えないようです。全額著者負担で OA 論文出版をする著者は以前から一定数います。ある著者が所属する大学で転換契約が導入されると全額著者負担から転換契約での OA 論文文化にシフトする、という当然といえば当然の傾向も見えています (サンプル数が少ないため具体的な数字は省略)。

先に Altmetrics は OA 論文で高い値を示すことを記しましたが、論文の該当学術分野内での影響力を表す被引用回数が OA 化によってどのように変化するかをまとめたのが図 3 です。これは 2026 年 7 月 11 日時点の集計です。発行年が古い、すなわち出版から年数が経つと被引用回数は増える傾向にあるため、横軸を発行年とした場合に被引用数そのものが右肩下がりになるのは自然なことです。注目すべき点は、OA 論文の被引用回数は非 OA 論文の被引用数をほぼ上回っていること、ただしその程度は 1.5 倍前後であることです。OA 論文だからといって思ったほど被引用数が大きく伸びるわけでもない、というのが現時点での筆者の個人的な感想です。ただ転換契約などが十分浸透するだろう年数を経過後にデータを再収集し、論文の学術的価値と OA との関係を再解析する必要があります。日本国内と国外の OA 支援や転換契約の状況の違いも考慮しなくてははいけな

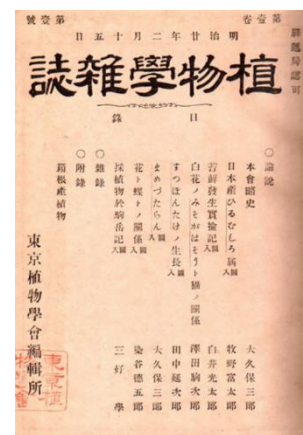


図 1 植物学雑誌創刊号
(1 巻 1 号)

植物研分館に所蔵あります

いでしょう。

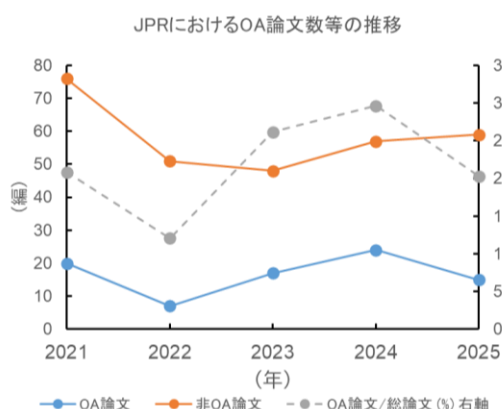


図2 論文の発行年ごとのOA論文数、非OA論文数、およびその比

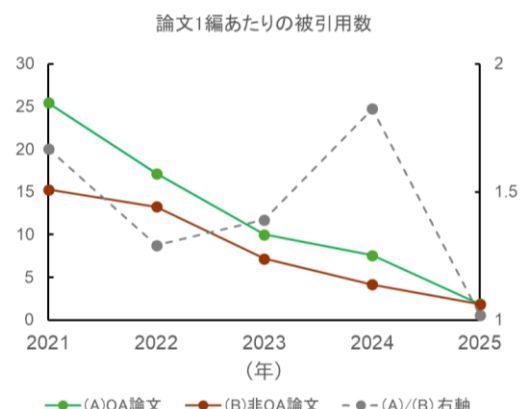


図3 JPR掲載論文の平均被引用数について論文の発行年ごとの解析

APC支援に関する課題

- JPRのような学会誌では、学会員は元々すべての掲載論文を読むことができます。そのため学会員と学会誌の関係に限れば、OA化の恩恵を感じにくいのが現実です。また個々の学会員について考えると、その所属機関によっては必ずしもOA化支援が受けられるわけではないので、学会誌をFull OA誌（掲載論文がすべてOA論文の学術誌）にすべきではないというのが現状での植物学会内の意見です。
- 転換契約の内容次第ですが、通常はOA論文とすることができる数（枠）には制限があります。そのため、枠の上限に達すると転換契約があっても支援対象外となってしまう。また、Full OA誌に適用されない場合も多いです。これらの点は、「インパクトの高い国際的学術誌へのAPC支援」と適切に補い合って解決していく必要があります。
- 転換契約によるOA化が論文投稿先選択において困り込みにつながらないか、という懸念もあります。APC支援が大学や科学界における与える効用と出版社の利益向上、そのバランスが妥当なものとして推移するかどうかは注視すべき課題です。

まとめ

OA化支援は大学にとって必要です。また、論文執筆者にとっても学術誌にとっても、ありがたいものです。その効果とコストパフォーマンスについては、今後蓄積されるデータをもとに改めて定量的に検討する必要があるでしょう。

*1 [学術出版における転換契約とは？ 意義と展望を解説 | 学術情報発信ラボ](#)

*2 <https://www.lib.okayama-u.ac.jp/support/apc.html>

*3 <https://www.lib.okayama-u.ac.jp/support/repository.html>

*4 <https://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/ja/page/altmetrics>

(かつはら・まき 資源植物科学研究所分館長)

マスカット

池田家文庫絵図展のお知らせ

池田家文庫は、岡山大学図書館が収蔵する、江戸時代の備前岡山藩の藩政資料を中心とした約10万点にもものぼるコレクションです。平成17年に岡山市と岡山大学の間で文化事業協力協定を結んで以降、「池田家文庫絵図展」として毎年テーマを変えて展覧会を開催しています。令和元年からは林原美術館も加わり、池田家ゆかりの資料が一堂に会する機会となっています。令和8年度は、「江戸幕府・岡山藩と朝鮮」と題し、江戸時代における幕府・岡山藩と朝鮮との関係を示す絵図・文書などを展示します。また、林原美術館の収蔵品から岡山藩ゆかりの資料を2点ご紹介します。

1. 名 称：企画展 池田家文庫絵図展「江戸幕府・岡山藩と朝鮮」
2. 会 期：2026年11月7日（土）～12月6日（日）（休館日を除く26日間）
[休 館 日] 毎週月曜日（ただし11月23日〔勤労感謝の日〕は開館し、翌24日〔火〕が休館）
[開館時間] 10:00～18:00（入場は17:30まで）
3. 会 場：岡山シティミュージアム 4階企画展示室
〒700-0024 岡山市北区駅元町15-1（リットシティビル南棟4・5階）
4. 入館料：一般310円 / 65歳以上、大学生以下無料
65歳以上の方は年齢を確認できるもの、学生の方は学生証を提示してください。
5. 主 催：岡山大学図書館、岡山シティミュージアム
共 催：林原美術館
6. [オープニングトーク]

日時：2026年11月7日（土）10:10～10:40

会場：岡山シティミュージアム 4階企画展示室

講師：岡山大学学術研究院社会文化科学学域 准教授 東野将伸氏

[講演会] 予約申込制

日時：2026年11月14日（土）14:00～16:00

講師：大妻女子大学比較文化学部比較文化学科 准教授 酒井雅代氏

演題：江戸幕府の外交ー朝鮮通信使を中心に

詳細は決定次第、岡山シティミュージアムホームページでお知らせします。

※講演会は10月20日10:00から岡山シティミュージアムにて電話先着順で予約を受付します。

<https://www.city.okayama.jp/okayama-city-museum/0000084885.html>

7. 主な展示資料：

朝鮮地図、日本図、〔対馬国絵図〕、朝鮮信使対州江来聘被 仰出候一件 上 御船手方指出伺書 古例共、〔対馬府中城図并城下図〕、〔奉書写し〕、邑久郡牛窓町筋絵図など



「知好楽セミナー」が「公共知共創フォーラム 知好楽」へと生まれ変わりました

2014年の開始以来、多くの皆さまとともに学び、語り合い、場を創り上げてきた「知好楽セミナー」は、図書館・公共知共創機構の発足を機に、「公共知共創フォーラム 知好楽」として新たなスタートを切ります。

多様な知と人が出会い、新たな公共知を創造する交流と共創の場として、今後はさらに幅広いテーマのもと、分野や立場を超えたつながりが生まれるフォーラムを展開していきます。

また、フォーラムの新たなシンボルとして、本学スクールカラーである青を基調に、図書館を象徴する時計塔と「知の広場」をモチーフとしたロゴマークも作成しました。(図1)。ロゴマークは、館内有志でイベント等を担当する「展示・イベントワーキンググループ」に所属する職員らが案を出し合い、決定したものです。ロゴマーク左側の図は、本学イメージカラーである青を基調に、本学図書館を象徴する時計塔と「知の広場」をモチーフとしています。図書館・公共知共創機構のもと、図書館、公共知共創オフィス、教員、職員、学生、地域の方々など、多様な人々が集う様を、本学のイメージカラーの青色に始まり黄色（青の反対色）に至るグラデーションに彩られた6つの球体で表し、対話を通じて新たな公共知を共に創り出す場を表現しました。時計の針は右上を指し、図書館を拠点として育まれた知が、大学から地域へ、そして未来へ向かって発展していく姿を象徴しています。ロゴマーク右側には「知好楽セミナー」開始当時の沖陽子館長が揮毫した「知好楽」の文字を引き続き使用し、「知の広場」と揃いのグラデーションで彩ることで、「知好楽セミナー」の伝統を受け継ぎながら飛躍を目指す思いを込めました。

開催情報は図書館ウェブサイトの新着ニュース等で随時お知らせします。生まれ変わった「公共知共創フォーラム 知好楽」に、ぜひご注目ください。



図1 ロゴマーク

※公共知共創フォーラム知好楽 ウェブサイト（知好楽セミナーも含む開催一覧を掲載）

<https://www.lib.okayama-u.ac.jp/support/chikoraku.html>



オープンキャンパス報告

中央図書館は、2026年8月7日（金）～9日（日）の3日間、鹿田分館は8月8日（土）、9日（日）の2日間、オープンキャンパスでにぎわいました。会場では、大学の授業で使用する教科書の展示などを行いました。ご来館いただいた高校生、保護者の方は、中央図書館で2,745名、鹿田分館で765名に達しました。

公共知共創オフィス関連報告

○全学共通科目「岡山の地域課題を共に考える」

公共知共創オフィスの床尾あかね准教授は、岡山県の産・官・学・金・言が連携する「おかやま地域発展協議体」と共催し、全学共通科目「岡山の地域課題を共に考える」を2026年度第二学期に開講しました。

本授業は、同協議体が開催した「岡山県の人口減少問題に関する勉強会」を端緒として開設されました。6月11日から7月23日にかけて、本学学生約70名が履修し、地域課題の解決に向けた対話を行いました。



授業では、岡山県、岡山市、倉敷市、中国銀行、山陽新聞社の5団体から各回、話題提供を受け、「若者に選ばれる住みたい・働きたいまちになるための方策」をテーマにグループワークを実施しました。協議体メンバーや関係者が毎回10名以上、のべ100名を超える規模で学生とのディスカッションに参加し、学生は自治体や企業の視点から現状や課題を学ぶとともに、多様な価値観に触れることができました。受講生へのアンケートでは、学生が地域課題への理解を深め、将来の就職する地域や住む場所について具体的に考えるきっかけとなったという報告が多くありました。

○2026年度岡山大学鹿田キャンパス合同FD『対話の質』を高めるワークショップ

公共知共創オフィスの吉川幸准教授は、本学医歯薬学総合研究科附属医療教育センター主催の2026年度岡山大学鹿田キャンパス合同FD（ファカルティ・ディベロップメント）『対話の質』を高めるワークショップ—レゴ®シリアスプレイ®を活用した相互理解の促進—（8月7日開催）でファシリテータを務めました。この研修は、教職員の相互理解を深め、職場におけるより良い対話につなげることを目的としたもので、教職員16名が参加しました。

手法として用いられたレゴ®シリアスプレイ®は、ブロックを組み立てながら自身の考えや役割を形として表現し、それをもとに参加者同士で語り合うことで、多様な考えや視点を可視化し、相互理解やチームビルディングにつなげる手法です。

参加者は、普段は言葉だけでは表現しにくい思いや視点をレゴ®ブロックで形にし、それぞれの作品を通して互いの考えを共有しました。作品という共通の対象を介して対話することで、一人ひとりの考え方の違いや共通点に目を向けながら、相手の意図や背景への理解を深めました。同時に、自分自身の考えを見つめ直し、相手の話に耳を傾けることの重要性について考える時間となりました。

岡大 HP 新着ニュース：https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15638.html



○第1回公共知共創フォーラム 知好楽：地方議会改革の挑戦と課題

公共知共創オフィスの岩淵泰准教授は、7月13日、九州産業大学の宗像優教授をお迎えして、「地方議会改革の挑戦と課題」をテーマにした第1回公共知共創フォーラム 知好楽を開催しました（「公共知共創フォーラム 知好楽」は、これまで当館で開催してきた「知好楽セミナー」をリニューアルした催しになります。当フォーラムについては別の記事で紹介しておりますので、そちらをご参照ください）。

当日は30名が参加し、宗像教授から九州地域における議会基本条例の設置とその特色について解説いただきました。宗像教授の論文『九州地域における地方議会改革の現状と課題』の読書会が事前実施されており、講演後は、読書会にも参加した学部学生・大学院生から質問があがり、活発な意見交換が行われました。参加者した学生からは、「中四国の議会基本条例を調査し、九州の事例と比較してみたい」といった意欲的な意見も寄せられました。

リニューアル後第一回目の今回の講演は、学生による主体的な問いかけや議論を引き出す場として準備が進められました。本取り組みが、図書館の新しい活動モデルとして今後さらに発展していくことが期待されます。

岡山大学図書館公共知共創オフィス 主催

講演会・学生との意見交換会

地方議会改革の挑戦と課題

講演：宗像 優 教授
九州産業大学 地域共創学部 地域づくり学科
専門分野：政治学、行政学、地方自治論
研究テーマ：地方自治、地方議会

日時：2026年7月13日(月)
15:30～17:00

会場：岡山大学図書館 中央図書棟
3階 セミナール室

参加無料

この企画は、岡山大学図書館公共知共創オフィスが主催する「公共知共創フォーラム」の一環として開催されます。本フォーラムは、地域の課題や問題について、専門家や学生、市民などが集まり、意見交換や議論を行う場です。本フォーラムでは、地方議会改革の現状と課題について、宗像教授から講演があり、その後、学生との意見交換が行われます。

【フォーラム概要】
本講演では、地方議会改革の現状と課題について、宗像教授から講演があり、その後、学生との意見交換が行われます。本フォーラムは、地域の課題や問題について、専門家や学生、市民などが集まり、意見交換や議論を行う場です。本フォーラムでは、地方議会改革の現状と課題について、宗像教授から講演があり、その後、学生との意見交換が行われます。

【参加プログラム】
15:30～16:00 開会式・講演（宗像教授）
16:00～16:30 読書会（宗像教授の論文『九州地域における地方議会改革の現状と課題』）
16:30～17:00 学生との意見交換

お問い合わせ：岡山大学 図書館公共知共創オフィス 岩淵 泰准
Mail: info@okayama-u.ac.jp

※上記以外の活動については、公共知共創オフィスのページでご確認ください。



2025 年 APC 支援成果報告および 2026 年新規転換契約開始のお知らせ

2025 年の APC 支援は、2024 年に引き続き「転換契約」と「インパクトの高い国際的な学術雑誌への APC 支援」の二種類を実施しました。転換契約では、The Company of Biologists・Elsevier・Oxford University Press・the Royal Society of Chemistry・Springer Nature・Wiley の6社との契約による APC 支援を行い、2025 年1～12月の間に255件のOA出版を支援しました。「インパクトの高い国際的な学術雑誌への APC 支援」では2025 年4～9月はTOP10%ジャーナルを対象に、2025 年10月～2026 年3月はQ1ジャーナルを対象を拡大して APC 支援を行い、134件のOA出版を支援しました。

また、2026 年1月からは、新規に ACM (Association for Computing Machinery) 社および Wolters Kluwer 社との間で転換契約を開始しました。

(参照) 転換契約について <https://www.lib.okayama-u.ac.jp/support/apc.html>

(参照) 「インパクトの高い国際的な学術雑誌への APC 支援」について

https://www.lib.okayama-u.ac.jp/campusonly_cms/apc_q1.html

岡山県ふるさと未来共創ボードゲームミッションカード選定会 開催報告

本学が事務局を務める「おかやま地域発展協議体」の専門委員会「おかやま SDGs 研究会」は2026年3月26日（木）、本学図書館において県内の中高生らを招いたイベントを開催しました。引率教員を含め約30名が参加したこの行事は、SDGsの取組事例を題材に社会課題を学ぶことを目的としています。研究会では、「選ばれる岡山」の実現に向け、岡山県版の「ふるさと未来共創ボードゲーム」制作を進めており、当日はその採用予定のミッションカード選定を目的としたものでした。



中国銀行担当者がファシリテーターを務め、まず参加者が既存の「京阪神版ボードゲーム」を体験。楽しみながら地域課題を学べるボードゲームの特徴を理解した上で、制作中の岡山県版ゲームに採用予定のミッションカード40枚についてグループに分かれて議論を行いました。

選定会終了後は、希望者を対象に図書館ツアーが行われ、館内の専門書やさまざまな施設を興味深く見学していました。

また、5月31日（日）、津山商工会議所を会場に、県北の高校生らを対象に選定会第2弾を実施、小学生1名人や引率教員を含む15名が参加しました。

完成予定の「岡山県ふるさと未来共創ボードゲーム」は、中高生の探究活動のほか、企業や自治体の研修など幅広い場面での活用を視野に入れ、2027年春ごろの完成を目指しています。

第10回おかやま円卓会議 開催報告

本学が事務局を務める「おかやま円卓会議」が2026年3月30日（月）、開催されました。座長には山陽新聞社代表取締役会長松田正己氏、副座長には那須保友学長、事務局長には三村由香里理事がそれぞれ再任されました。



人口減少対策としては、2025年の勉強会成果冊子『岡山県の人口減少問題に関する勉強会2025』の作成に加え、2026年度には大学内で学生とおかやま地域発展協議体メンバーが協働する「岡山の地域課題を共に考える」授業を開講し、実践的な解決策を検討する計画が報告されました。また、「おかやま未来共創プロジェクト」では、県内企業の取り組み事例を集めた「岡山県ふるさと未来共創ボードゲーム」作成の経過報告がありました。

会議の終盤には、人口減少問題の深刻化を受け、課題や対応策について活発な意見交換が行われました。

SDGs アンバサダー合同説明会・レクリエーション企画 開催報告

2026年4月11日（土）および18日（土）に、本学中央図書館ラーニングコモンズにて「SDGs アンバサダー合同説明会」を開催しました。本イベントは、新入生をはじめとする学生に対し、本学のSDGsアンバサダー活動への興味・関心を高めるとともに、アンバサダー各団体間の親睦・交流を深めることを目的として実施しました。

説明会には、アンバサダーとして活動している「SDGs アンバサダー運営部」、「岡山大学 TABLE FOR TWO」、「Frontier School」、「Copain」、「Global Project」、「Nature」の計6団体が参加しました。SDGs アンバサダーの概要説明、各団体の活動紹介を実施したのち、PV 視聴や団体クイズを通じて参加者同士の交流を深めながら、具体的な活動内容を知ってもらうことができました。当日は新入生に加え、2年生以上の在校生も多数参加し、楽しみながら SDGs アンバサダー活動への理解を深めるイベントとなりました。



さらに4月19日(日)には本学一般教育棟にて「レクリエーション企画」を開催しました。イベント終了後には各団体との交流時間を設け、興味を持った団体についてさらに深く理解する機会となりました。

第29回おかやま地域発展協議体委員会 開催報告

2026年7月10日(金)、本学で開催された第29回おかやま地域発展協議体委員会は、規約改正と組織拡充を柱に議論されました。同協議体は産官学金言が連携し、岡山の持続的発展を担う組織です。

会議では、書面審議の規定明文化を含む規約改正が了承されました。また、「おかやま地域発展協議体の拡充・再構築」についても協議が進みました。本学は、文部科学省の新事業を活用した「おかやま地域未来共創プラットフォーム」構想を提示。

現行協議体を発展させ、若者参画の「ユースボード」設置や一般社団法人 OLIVE の設立による社会実装機能強化を目指すもので、概ね了承されました。

さらに、本学授業での学生による地域創生方策の提案も共有されました。SDGs 研究会からはボードゲーム開発や国際連携の報告、コロナ対策研究会からは感染症情報共有体制の維持が伝えられました。県やメディアからも人口対策などの情報提供があり、関係機関の連携深化と地域課題解決への取り組み強化が確認されました。



津山スクール 美作国 Day in 岡山大学 実施報告

2026年7月18日(土)、本学津島キャンパスで第6回「美作国 DAY in 岡山大学」が開催され、県北地域の中中学生6名、高校生41名が参加しました。

午前のセッションでは、教育学部の熊谷愼之輔教授より「岡山県北地域教育プログラム」の説明がありました。その後、同プログラムを受講する教育学部1年生10名による体験談が披露されました。発表者の全員は昨年度の同プログラム参加者であり、先輩・後輩の目線から受験対策や一人暮らしの実情など具体的なアドバイスを提供しました。熊谷教授は「教育とは地域の循環であり、来年は君たちがここから後輩を育成してほしい」とエールを送りました。



午後には中央図書館にて、館内クイズによる「大学図書館見学・ラリー」を実施。さらに、研究・イノベーション共創機構の小林健輔 URA による「AI 時代を生き抜く！中高生のための AI 協働サバイバルガイド」ワークショップが行われました。参加者は大学開発の AI を実際に操作し、協働に必要な思考法や活用法を学びました。日常的に AI に触れている参加者であっても、適切な答えの導き出し方や AI の特性（苦手分野や誤情報の可能性）を理解する貴重な機会となりました。

おかやま SDGs フェア 2026 参加報告

2026 年 8 月 5 日（水）、6 日（木）に岡山コンベンションセンターで開催された「おかやま SDGs フェア 2026」に、本学および学生団体が参加しました。同フェアは県内の SDGs 取り組み紹介と地域連携を目的に、約 100 団体が参加し講演やワークショップ、ブース出展を行いました。



那須保友学長は基調講演で「岡山版ビヨンド SDGs 案」を初披露し、2031 年以降の 10 の共生ウェルビーイング目標（SWGs）に関するビジョンを提示しました。また、若者向けの対話イベントでは小学生らと車座で議論し、貴重な交流が図られました。

学生団体「Nature」は廃材を使ったうちわ作りワークショップを開催し、リサイクルの面白さと環境保全の重要性を参加者の子どもたちに伝え、好評を博しました。三村由香里理事（本フェア実行委員）はあいさつで、新たな協働による地域発展を期待すると述べ、関係者に謝意を示しました。

2 日間で教職員や学生がブースを担当し、約 200 組の来場者に本学の SDGs 関連活動や研究成果を紹介。参加者は熱心に学び、本学の取り組みに対する理解を深めました。

図書館館内展示報告

○中央図書館

- ・企画展「岡山大学所蔵 池田家文庫」

展示期間：2026 年 3 月 6 日（金）～

展示場所：本館 2F ムラタアカデミア（クスノキエリア）

- ・国吉康雄記念研究寄付講座

「Knowledge Commons Okayama 2026-2027 ～不易流行プレ展」展示

展示期間：2026 年 8 月 18 日（火）～10 月末

展示場所：本館 2F ムラタアカデミア（イチョウエリア）

- ・中央図書館ミニ展示報告

4 月 新学期応援おすすめ本

5 月 レポート・論文の書き方

6 月 天気・気象特集

7～8 月 岡山の魅力を再発見！

9 月 岡山大学文明動態学研究所第 2 回特別展「鹿田遺跡と 1950 's Okayama ―発掘とカラー写真から記憶をたどる、未来へつなぐ―」関連展示

○鹿田分館

・「アルバイトおススメ外食店」

鹿田分館のアルバイトたちが普段利用している外食店をリストアップし、コメント付きで紹介する展示。鹿田キャンパス近辺で美味しい料理店やスイーツの店、パン屋さんなど数多く紹介しており、分館の利用者から好評を博しています。

展示期間：2026年4月15日（水）～

展示場所：2階ロビー →（8月3日から）2階閲覧室



・「岡山医科大学と鹿田キャンパス」

岡山医科大学は岡山大学医学部の前身で、鹿田キャンパスができたのは岡山医科大学の時代です。以来、岡山のみならず中・四国の医学教育機関として日本の医学界に大いに貢献してきました。鹿田キャンパスに今も残る岡山医科大学時代の建物等の紹介をしています。

展示期間：2026年8月3日（月）～

展示場所：2階ロビー



○植物研分館

2026年5月9日（土）～5月22日（金）に、植物研分館は貴重資料等の展示「植物と虫と人間と：虫を使う・虫と闘う」を実施しました。

植物研分館所蔵の貴重資料であるペッフアー文庫、大原農書文庫、大原漢籍文庫を中心に16点と複製パネル33点を展示しました。

また、5月9日の資源植物科学研究所一般公開では、クイズラリーを開催しており、植物研分館でも展示内容からクイズを出題し、お子さんから大人まで参加者のみなさまに楽しんでいただきました。



オリエンテーション・データベース講習会実施報告

○中央図書館

中央図書館では2026年4月～7月にオリエンテーションやラリー、ガイダンスを開催し、延べ651名の方にご参加いただきました。

2026年4月～7月にはオンラインデータベース講習会を開催しました。リアルタイムでは延べ88名の方にご参加いただきました。開催後には岡山大学 Moodle を介して記録動画を公開し、2026年8月31日までにオンデマンド配信で延べ144名の方にご覧いただきました。

オリエンテーション、ラリー

実施日	対象	参加人数
4月3日～4月27日	新任教員	11
4月1日～7月28日	新入生	457

ガイダンス

実施日	講習会名	参加人数
4月15、28日	図書館・文献検索ガイダンス (教員の依頼により授業にて実施)	39
4月28日	レポートの書き方講習会 (教員の依頼により授業にて実施)	144

講習会

実施日	データベース	参加人数	視聴者数*
4月21日	クラリベイト・トレーニングサミット 2026 Web of Science 講習会	66	45
7月1日	レポート作成に役立つ文献の集め方 : OU OneSearch 講習会	13	81
7月9日	Gale Academic OneFile 講習会	9	18

*2026年8月31日までのオンデマンド配信の視聴者数

○鹿田分館

鹿田分館では2026年4月にオリエンテーションを開催し、322名の方にご参加いただきました。

また、2026年5月から8月にかけて生成AIやデータベース・文献検索などの講習会を開催し、延べ202名の方にご参加いただきました。

オリエンテーション

実施日	講習会名	参加人数
4月2日	医学部医学科新入生 オリエンテーション	113
4月7日	歯学部歯学科新入生 図書館館内ツアー	53
4月28日	医学部保健学科新入生 図書館館内ツアー	156

講習会

実施日	講習会名	参加人数
5月15日	UpToDate 説明会・登録会	7
5月18日	30分でわかる生成AI	66
5月19日	AIで変わる！文献検索の新方式	15
6月17日	研究論文入手講習会	14
6月24日	実践的論文検索講習会	4
7月9日	保健学科3年生向け文献検索講習会	77
7月14日	CINAHL 講習会	2
8月24日	UpToDate 活用セミナー (新機能生成AIの解説)	17

○植物研分館

植物研分館では2026年4月～5月にオリエンテーションを開催し、148名の方にご参加いただきました。

オリエンテーション

実施日	対象	参加人数
4月6日	環境生命自然科学研究科新入生	4
5月12日	農学部新入生	144

教員からの寄贈図書リスト

次の方から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

<中央図書館>

江口泰生 [名誉教授]

A. タタリノフ著『レクシコン』による日本語研究：附『レクシコン』翻字・翻訳と注釈
(研究叢書 584) ——和泉書院, 2026.2 (818.21/E 33)

尾上雅信 [学術研究院教育学域 (教育学)]

教員養成に関する国際交流研究：ジャーマン・インパクトを中心に
(科学研究費助成事業基盤研究(C) 令和3-6年度) ——2026.3 (F373.7/O 67)

川上恵理 [学術研究院社会文化科学学域 (文)]

奇想の版画 1500-1650：帝都プラハを交差するヨーロッパ版画
——郡山市立美術館, 2024.11 (732.3/Ki 59)

木村唱子 [社会文化科学研究科 (寄贈時)]

第四の耳で聴く：集団精神療法における無意識ダイナミクス
——木立の文庫, 2021.11 (146.812/H 89)

沢山美果子 [客員研究員]

乳と捨て子の〈近代〉：産み育てる現場から (歴史文化ライブラリー 626)
——吉川弘文館, 2025.12 (367.3/Sa 98)

柴田 亮 [学術研究院先鋭研究領域 (文明動態)]

中世前期の在地社会と東アジア交易：九州西北地域の考古学
——高志書院, 2026.2 (219.304/Sh 18)

竹島あゆみ [学術研究院社会文化科学学域 (文)]

〈承認〉の軌跡：ヘーゲル社会哲学の生成と発展 (岡山大学文学部叢書 4)
——晃洋書房, 2026.3 (134.4/Ta 65)

田中共子 [学術研究院社会文化科学学域 (文) (寄贈時)]

留学生の発達援助：不適應の実態と対応——多賀出版, 1997.5 (377.6/I 55)

通じる前向き会話術：アメリカ留学ソーシャルスキル——アルク, 1994.6 (377.6/Ta 84)

うつ病・パーソナリティ障害・不安障害・自閉症への対応

(ワークショップから学ぶ認知行動療法の最前線) ——金子書房, 2008.8 (493.72/W 35)

中東靖恵 [学術研究院社会文化科学学域 (文)]

地域日本語教育を行政と共に創る：岡山県総社市「総社モデル」の構築と展開

——ひつじ書房, 2025.11

(810.7/N 43)

歴史からひも解く日本語教育の世界：古代から現代まで

——スリーエーネットワーク, 2026.6

(810.7/N 71)

山本由美子 [学術研究院共通教育・グローバル領域 (グローバル人材(GDP))]

フェミニスト経済学ハンドブック——法政大学出版局, 2026.1

(331/F 18)

前田仁暉 [学術研究院先鋭研究領域 (文明動態)]

木・ひと・文化：出土木器研究会論集 2——出土木器研究会, 2026.5

(F202.5/Ki 11)

光本 順 [学術研究院社会文化科学学域 (文)]

岡山市向場・黒住丘陵の遺跡測量調査概要報告

——岡山大学考古学研究室, 2026.3

(LF217.5/O 47)

◎岡山大学出版会からの寄贈図書リスト

孫 路易 [学術研究院共通教育・グローバル領域]

朱子哲学の研究——岡山大学出版会, 2025.12

(125.4/So 4)

会 議

◆学外

2026.4.24	第53回国立大学図書館協会中国四国地区協会総会 (於：愛媛大学)	2026.6.22	令和8年度岡山県図書館協会総会 (於：岡山県立図書館)
2026.5.15	第74回中国四国地区大学図書館協議会総会 ～5.29 (メール会議)	2026.7.1	岡山県大学図書館協議会令和8年度総会 ～7.15 (メール会議)
2026.6.18	第73回国立大学図書館協会総会 ～6.19 (於：新潟市)	2026.7.10	第29回おかやま地域発展協議体委員会 (於：岡山大学)

◆学内

2026.7.6	令和8年度第1回岡山大学出版会運営委員会 (オンライン会議)	2026.8.3	令和8年度第1回岡山大学出版会編集委員会
2026.7.6	令和8年度第1回岡山大学図書館電子ジャーナル等経費検討委員会・電子ジャーナル等選定ワーキンググループ合同会議 (メール会議)	2026.8.6	令和8年度第1回岡山大学図書館・公共知共創機構運営委員会資源植物科学研究所分館分科会
2026.7.30	令和8年度第1回岡山大学図書館・公共知共創機構運営委員会 (オンライン会議)	2026.8.20	令和8年度第1回岡山大学図書館・公共知共創機構運営委員会鹿田分館分科会

研 修

- ・令和8年度大学図書館員のためのIT総合研修
参加者 石丸 綾華 (8.26-8.28)

- ・九州大学研究データ管理支援人材育成プログラム
(4.11, 4.25, 5.16, 5.30, 6.13, 6.27)
参加者 石丸 綾華

共催・後援

◆共催

- ・県図協セミナー（第3回）「ネットと生成AIの時代に、なぜ読書？なぜ図書館？？～児童・生徒・市民が未来を切り拓くための探究学習支援」（8.28）
- ・第2回公共知共創フォーラム知好楽「大学図書館から広がる外国語学習の環境づくりー英語多読を起点としてー」（9.9）

◆後援

- ・多読を活用した工学系学生の英語力向上法（9.8）

編集委員から

図書館が「図書館・公共知共創機構」という新しい体制となって1年を迎えました。どのような変化があったのかは、弊誌「楷」の紙面からご覧いただけます。発信する記事の内容が大幅に拡充され、紙面も一段とにぎやかな内容になっていると思います。

図書館の取り組みや学習・研究支援の情報だけでなく、新組織としての活動についても紙面を通して知っていただけたらと思います。(K.F.)

岡山大学図書館報「楷」 No. 83 2026年10月1日

編集 広報ワーキング

岡山大学図書館発行

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1-1

ホームページ URL <https://www.lib.okayama-u.ac.jp>

